

四日市市幼児教育センター

令和7年3月



センターだより



夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども



四日市市幼児教育センターHP

連絡先 059-333-6002

「こどもの権利と尊厳を守る」(*1)

各施設から学び、実践の中で振り返って

*1 はじめの100か月の育ちビジョン
ビジョン1より

令和6年度も残すところ、1週間ほどになりました。桜の開花予想が出ましたが、まだまだ寒さを感じます。

各施設で、一年、様々なことを体験した子どもたちの姿を振り返ると、一人ひとりのこどもの育ちに感慨深い思いが浮かび上がってくるのではないのでしょうか。こどもの成長をかみしめつつ、新しい年度を迎える期待が高まってきていることと思います。

皆様、たいへん忙しい毎日をお過ごしと思いますが、お体ご自愛下さい。

幼児教育センターも今年度以上に、来年度に向け、四日市市の保育者の皆様と共に就学前教育・保育の質向上のために取り組んでいきたいと思っています。

さて、ここで各施設を訪問させていただいている4人のアドバイザーの年度末の会議の様子をお伝えいたします。



園訪問のことを振り返ってみると、様々なことが思い出されます。

初めての訪問の時は、緊張もありましたが、訪問するたびに、温かさを感じました。また、それぞれの施設でこどものために大事にしている方針や特色があり、学びも多く、園訪問は「よっかいちのこどもの育ち」のために今後も継続し、充実させていきたいと思っています。



まさに、それですね。園訪問を重ね、各施設の保育者の皆様と少しずつ顔なじみになり、一緒に保育の話をするのをうれしく思っています。



保育者の皆様のホッとする笑顔で迎えられ、訪問できよかったと思います。訪問を重ねるごとに、就学前教育・保育の現場では、想像以上に幅広い取り組みが行われ、子どもたちが遊びや活動を通して、様々なことができる力を備えていることに驚かされました。遊びに没頭しているときの集中力、制作活動で見られた創意工夫などなど・・・このこどもの育ちや学びを小学校教育へつないでいくことが、今まで、四日市で大事にしてきた接続の取り組みを、さらに深めてい

くことになるのだと思います。



なるほど、はじめの100か月の育ちのビジョンの1を表題にしましたが、はじめの100か月の育ちのビジョンの必要性として、「誕生から入園、入学の前後や、家庭・関係機関・地域などの間に、育ちの「切れ目」が数多くあります。

「こどもの成長に応じた環境の変化が、育ちの「切れ目」にならないように、全てのこどもの『はじめの100か月』を社会全体で支援・応援していきたいと考え、専門家の知見やこども・若者の声をもとにビジョンにまとめました。全ての人と理念を共有し、関連する施策や取組を力強く進めるための羅針盤として、『はじめの100か月の育ちビジョン』が策定されました。」とこども家庭庁の専門職の方に向けた研修ガイドに載っています。

一人ひとりのこどもの育ちをつなげていくために、各施設の教育・保育職員の皆様と今後さらに交流・連携を図っていくことを大事にしていきたいですね。



多様な人材である保育者の皆様が活き活きと、こどもたちと遊び・活動している姿から、私たちアドバイザーが元気をもらうこともありました。また、逆に各施設の保育者の皆様が、私たちアドバイザーに、様々なことを話してもらえる伴走型支援を忘れず、信頼関係を築いていきたいと思えます。



今後も各施設の要望に応じることはもちろんですが、アドバイザーから積極的に園訪問を行うアウトリーチ型支援に努めていきたいと思えます。

四日市の就学前教育・保育の質向上のために、私たちアドバイザーが四日市市の103施設の横のつながりのため、そして、各小学校・中学校との縦のつながりのためのハブとしての役割を担っていくことができるよう進んでいきたいと思えます。



幼児教育センター全職員で、よっかいちのこどものウェルビーイング、保育者のウェルビーイングを願って、3年目も着実な一歩を歩んでいきたいですね。

そして、幼児教育センターが、2年目を終えることができるのも、各施設の保育者の皆様のご協力のおかげであることに感謝申し上げます。また、教育委員をはじめ、関係機関の皆様にも温かく見守りご支援いただいていること、感謝申し上げます。



書籍紹介

東洋館出版社 文部科学省 著

幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？
—幼児教育と小学校教育の円滑な接続のための参考資料
文部化科学省が幼児期の遊びを通した学びと各教科の学習とのつながりを徹底解説しています。

株式会社 講談社 遠藤寿彦 監修

怖くて不安なとき、子どもは身近なだれか特定の人にくっつくとうします。そして、多くの場合、くっつくことで「もう大丈夫」という安心感に浸れます。アタッチメントとは、まさにこのことを指している言葉です。(まえがきより)

